豊かな国際感覚をもつ人材育成を目指した教育課程編成

前シンガポール日本人学校クレメンティ校　教頭
北海道富良野市立樹海学校　教頭　高　田　正　人

キーワード　特色ある教育課程編成、グローバル人材の育成、選ばれる日本人学校

赴任校の概要（2025年4月1日現在）
シンガポール日本人学校クレメンティ校
The Japanese School Singapore
Primary School Clementi Campus
URL：https://www.sjs.edu.sg/clementi/

1 はじめに

今後、ますますグローバル化が進展する中で、豊かな国際感覚を身につけた人材育成は急務である。シンガポール日本人学校では、平成31（2019）年にグローバル人材育成大綱を作成し、豊かな国際感覚を身に付けた人材育成に向けた特色ある教育活動を推進している。また、選ばれる日本人学校の視点からも海外に在住する児童及び保護者にとって、「通ってよかった」「通わせてよかった」と思っていただける学校づくりに向けて特色ある教育課程編成は重要である。

2 本校の概要

(1) シンガポール日本人学校

シンガポール日本人学校は、小学部2校（クレメンティ校、チャンギ校）、中学部1校の3校体制となっている。3校合わせて約1,800名の児童生徒（令和6年4月）がおり、世界の日本人学校の中でも大規模校となっている。

(2) 教育目標

①シンガポール日本人学校の目指す教育

「豊かな国際感覚をもち世界とつながろうとする人材の育成」

②クレメンティ学校教育目標

「夢をもち　夢を育み　夢を叶える教育実践」とし、校訓「希望の登校、満足の下校」

(3) 本校の具体的取り組み

①「生きる力」を育む基礎・基本の徹底

（ア）確かな学力を育むための学習活動の充実

a）主体的・対話的で深い学びを目指した指導法の工夫・改善に取り組んだ授業づくりを行う。

b）児童や学校の実態を適切に把握し、教育課程の編成を行い、それに基づき組織的・計画的に教育活動を推進する（カリキュラムマネジメントの推進）。

c）学習規律の徹底を図るとともに、個に応じたきめ細かな指導の実践を行う。

（イ）豊かな心の育成

a）特別の教科道徳を中心に全教育活動の中で、自らを律し、他者を思いやる心の育成に努める。

b）多民族国家の中で生活していることを生かし、様々な人々の交流や体験活動の中で、国際感覚を身につけるとともに、互いを認め合う心を育成する。

c）学校図書館の利用を促進し、読書活動の充実に努める。

（ウ）健やかな身体の育成

a）体育科で十分な運動量を確保し、各種運動能力をバランスよく高める体育科の授業づくりを行う。

b）自分の健康や体力について知り、心身の健康向上に関心・意欲をもたせるため、運動能力テストや健康診断・身体計測の活用を図る。

②英語教育の充実

（ア）英語科Ⅰでは、CEFRの指標に基づき、指導内容を明確にした指導を行う。また、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を効果的に高める指導の充実を図る。さらに習熟の程度に応じた指導の充実に努める。

（イ）英語科Ⅱでは、学級・学年単位での授業を基本に、英語科Ⅰで習得した英語を活用できるよう工夫する（ローカル校との交流など）。

（ウ）イマージョン教育を積極的に取り入れ、音楽及び水泳の授業においては、英語での授業を中心とした指導を推進する。

③国際理解教育と現地校との交流の推進

（ア）探究科基礎では、主にシンガポールと日本との相違点や共通点などについてSDGsの視点を取り入れた学習を推進する。

（イ）Qifa（チーファー）小学校やHenry Park（ヘンリーパーク）小学校との交流やホームステイ事業の充実を図る。

④ICT教育の充実（情報活用能力の育成）

（ア）プログラミング教育への理解を深めるため、発達状況に応じた計画的な指導の推進を行う。

（イ）情報端末の利用における情報モラル・セキュリティーの確保に含めた情報教育を推進する。

⑤特別支援教育の充実

（ア）「個別の支援計画」「個別の指導計画」に基づき、特別支援教育の充実を図る。

（イ）障がいのある児童の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために適切な指導及び必要な支援を推進する。

⑥家庭・地域の連携

（ア）PTAおよび保護者ボランティアと協力し、学校と保護者との連携を推進する。

（イ）日本人会行事や活動に参加するとともに、シンガポール社会へ貢献する。

（ウ）日本人学校協同組合と連携・協力し、児童の安心で安全な登下校に取り組む。

（エ）学校ホームページ・各種たより・ブログ等を活用して学校情報の発信を行う。

3 豊かな国際感覚をもつ人材育成に向けた教育活動

(1) 英語教育の充実

豊かな国際感覚をもつ人材育成のために、シンガポールの公用語である英語を身につけ、世界とつながれるよう英語教育の充実を図っている

①英語科Ⅰ

1年生から6年生の全学年で週3時間、英語の授業を実施している。特徴としてCEFRの指標に基づく明確な指導内容を全学年で行っていること、1クラスを10人程度とし、12クラスの少人数に分けた習熟度別クラスが挙げられる。英語科教員はすべて現地のネィティブを採用し、授業はすべて英語で行われる。テキストは現地インター校で採択されている教科書を使用しているが、習熟度に応じてアクティビティ等を効果的に取り入れるなど、児童が興味をもち楽しく学べる授業づくりを行っている。

英語科Ⅰの授業の様子

②イマージョン教育

通常の教科学習を英語で行うイマージョン教育を本校では音楽科と体育科で行っている。音楽、体育（水泳）共に1～4年生は週1回、5・6年生は2週に1回、授業を行っている。

音楽は現地採用の英会話教員を2名採用し、学習指導要領に準拠し英語での教育と日本語での教育を分け、指導計画を作成している。体育（水泳）は、スイミングスクールの会社に委託し、講師2名（低学年は3名）が派遣されている。

イマージョン水泳の様子

授業は、音楽、英語共に年間を通して行い、授業中の説明や指示などはすべて英語で行っている。音楽や水泳の技能を高めながら、生きた英語を学ぶ機会となっている。

(2) 現地理解教育

多民族国家の中で生活している環境を生かし、様々な人々の交流や体験活動を通して、国際感覚を身につけるとともに、互いを認め合う心を育成するために、教科の学習からシンガポールの特色を取り入れた現地理解教育を実施している。

①年間指導計画に位置付けた校外学習

各学年、教科のねらいを達成させるために現地素材を活用した校外学習を実施している。例として、1年生のシンガポール動物園（生活科）、3年生の日系工場の見学（社会科）、4年生の地域探索学習（総合的な学習の時間：チャイナタウン・アラブストリート他）が挙げられる。教科における学びを深めると共にシンガポールの特長を理解させている。また、これらの学習から日本を外から見つめ、グローバルな視点から物事を考える機会となっている。

②総合的な学習の時間（探究科基礎）

本校では、グローバル人材育成大綱における人材像「世界中どこにおいてもそこで共に生き、持続可能

な未来社会実現に向けて活躍することができる日本人」に基づき、総合的な学習の時間を探究科基礎と位置づけ、主にシンガポールと日本との相違点や共通点などについてSDGsの視点を取り入れた指導計画を立て、現地素材を活用しながら課題設定力、課題解決力、表現力の育成を図っている。

(3) 交流活動

英語科Ⅰで習得した英語を活用できるよう、英語科Ⅱとして、各学年で提携を結んでいる現地校との交流を行い、実践的な英語の活用及び交流を図っている。また、探究科におけるシンガポールの探究活動の発表の場として、日本国内の学校とつなぎ、発表会及び交流を行っている。

①現地校交流

提携を結んでいる現地校とそれぞれの学年で交流を行っている。また、1年生～4年生は、年に2回（現地校への訪問、現地校の受入れ）交流している。内容は、英語を用いた自己紹介やゲームやダンス等での交流を通して現地校の児童を知り、触れ合う活動を行い、さらに、互いの文化の紹介（現地校訪問ではシンガポールや東南アジア地域の伝統的な遊び、現地校受入れでは書道やけん玉、折り紙など日本文化）を通して異文化理解を図っている。また、5・6年生は、シンガポール国立大学（NUS）で日本語を専攻している学生との交流も行っており、異年齢とも英語を介して交流を図る活動を行っている。

現地校交流の様子

現地校交流は、実践的英語を用いた人的交流に加え、互いの文化を紹介、体験する異文化理解交流の貴重な機会となり、国際感覚を育む素地となっている。

②日本国内との交流

探究科基礎では、各学年で「まちづくり」「環境」「多文化共生」「歴史」の視点を設け、シンガポールについての探究活動を行っている。探究活動の成果を校内だけに留めずに、日本国内の学校とオンラインでつなぎ、交流を図ることでシンガポールと日本との相違点や共通点に気づける視点を育てる活動となっている。現状は各先生が原籍校や知り合いの教員を介し、交流を実施しているが、今後、日本国内の学校と提携を結び、継続して行えるようになると、持続可能で深まりのある交流となり、さらなる学習効果が期待できる。

4 おわりに

在外教育施設の使命の一つに、「海外に住む子どもたちに日本国内と同等の教育を施すこと」が挙げられる。学習指導要領に基づいた教育活動を行うことで、在留邦人の子どもたちにも日本国内と同じ質の学びを保障することが重要である。さらに、在外という特性を生かした特色ある教育を展開することで在外教育施設ならではの教育の充実が図られ、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成につながると考える。

派遣校であるシンガポール日本人学校クレメンティ校では、こうした理念に基づき、特色ある教育活動を推進している。その取り組みを通じて、グローバル人材の育成に貢献していると改めて実感している。

また、本校の校訓である「希望の登校、満足の下校」に象徴されるように、今後も子どもたちにとって楽しく充実した学びの場であり続けることを願っている。